

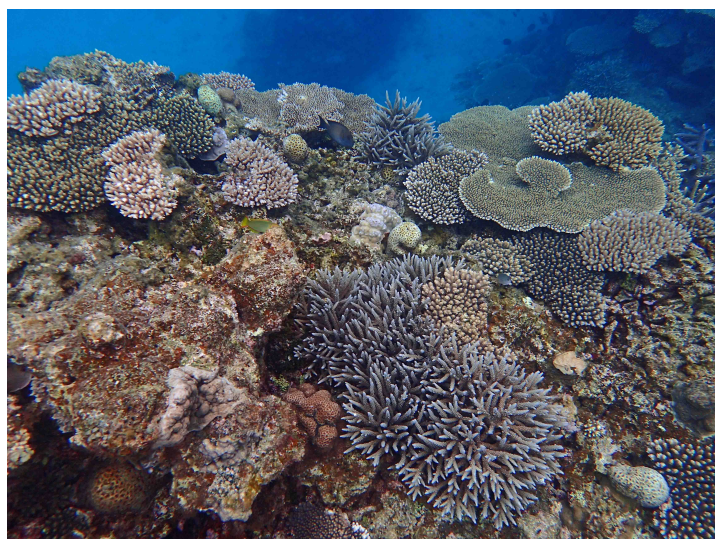
【私の研究自慢】（第一回）

2019年4月19日 磯村 尚子

皆さん、こんにちは。

生物資源工学科で環境関連の科目を担当している磯村尚子（いそむらなおこ）です。今回は、磯村研究室の研究紹介を通して、生物資源工学科を知ってもらおうと思います。磯村研究室では、さんご礁を形づくる硬い骨格を持つイシサンゴ類、みなさんが「サンゴ」と呼んでいる生き物を研究対象にしています。このサンゴですが、全世界で約800種が確認されており、沖縄にはその中の何とおよそ400種が生息しています。サンゴを見に毎年大勢の人が沖縄にやって来ますが、観光資源としてだけではなく、サンゴは魚や他の生き物たちの棲み場所や餌場を提供する屋台骨として非常に重要な役割を担っています。

しかし、近年は気候変動や海洋酸性化によりサンゴの数が減少しており、世界中の研究者がいろいろな視点・手法を用いて、サンゴの減少を食い止めようとしています。磯村研究室では、サンゴの繁殖・生殖に焦点を当て、水温が高い状態が続くとサンゴの産卵や受精にどのような影響が出るのか、飼育サンゴが産卵するためにはどのような光条件が適しているか、などについて研究をしています。



ただし、サンゴの研究をする時に必要なのはサンゴの知識だけではありません。サンゴや人間を含め、生物が現在どのような状況にあり、どう対応していく必要があるかを考えるには環境学関連の科目、実際に実験するには遺伝子工学、生化学、生理学などの各実験科目で得た知識と経験が必要になります。

沖縄高専生物資源工学科では、どの研究分野でも必要な上記の科目を学生が習得できるようになっています。とは言うものの、「百聞は一見にしかず」です。サンゴや海洋環境に興味があるなあという人は、公開授業に参加して話を聞いてみてください。

また、これから夏休みに向けてオープンキャンパスやサマースクールが次々と開催されますので、直接話をするのも大歓迎です。一人でも多くの方が沖縄の環境に関心を持ち、沖縄高専で共に研究してくれることを願っています。

